学校番号	318

令和３年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の美術２」　美Ⅱ304　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日常の何気ない出来事にも美術（芸術）が織り込まれていることに気付くこと。より多面的な視野で日常における美術を認識すること。また、柔軟な思考、多面的な視点、探求心などは、美術に限らず様々な分野においても必要ではないかと考える。

2　学習の到達目標

日々の身近な日常から芸術、美術を抽出し、表現へと展開する。多様な創造性を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	課題制作をきっかけに柔軟な発想、思考を育む。 教科書だけでなく、日常生活に関わる芸術への気付き。 様々な素材、多様な表現手段に対して積極的に取り組む姿勢。	様々な資料などを参考にする共に、自身の発想を明確にする。 発想の具現化において表現手段が妥当であるかの検討、予測。 課題を遂行するにあたっての臨機応変な判断、対応。	素材の性質を活かして表現する。 素材を加工する道具の特性を理解し、実行する。 様々な技法の習得。	課題における意図の理解。そこからの展開。 多種多様な描画材や素材などの可能性を探究する。 参考資料における芸術文化の習得。
評価方法	課題へ向き合う姿勢。 発想から完成までの意欲。 参考資料の探求（書籍、インターネット検索など）。 授業における準備、片付け、掃除など。	アイデアスケッチ。 制作途中の作品チェック。 ・表現、技法、完成が想定外であってもかまわない。 ・作品を無難に仕上げるより、発想、素材、技法などから、どの様な表現が出来るかを試行錯誤した作品、制作過程に模索と潔さが感じられる作品を評価する。 完成作品。	制作途中の作品チェック。 課題に用いる素材に適した表現の実行と新たな表現の試み。 様々な道具を活かした技法の展開。 多種多様な素材に対しての表現。	課題の理解と展開。 自身、他者の作品に対する興味関心や意見交換。 完成作品。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	水彩・コラージュ	水彩表現・コラージュ 水彩（アクリル絵具）を用いて、様々な色彩カードを制作する。 制作した色彩カードを用い、テーマにそって、コラージュによるイメージ表現を展開。	○	○	○	○	a 参考資料の収集。 アクリル絵具の特性や技法、アクリル絵具を用いた作品のネット検索、収集。 B 絵具における混色。紙の材質の探求。 c 混色により出来上がる色の把握。 紙の加工、素材の特性を活かした模索。 d 課題をどの様に理解したか。制作過程での技法の把握。学生間の作品への興味関心、意見交換の様子など。	:課題作品を制作する意欲、姿勢 :アイデアスケッチ :制作途中の作品チェック :学生間での作品への意見交換 :完成作品 :準備や片付け、整理整頓の状況
前期	油彩1・2	油彩表現　二点 1-光を表現する- ・「光」をテーマに油彩で表現する。 教科書など、各自資料を参考にしながら、アイデアスケッチを行なう。 何枚もの下書きから構図などを練り上げ、麻キャンバスへ油彩で表現する。 2-「影」をテーマに表現する。詳細は１と同様。	○	○	○	○	a 参考資料の収集。 油彩の特性、油彩技法のネットによる検索、収集。 b「光」「影」をどのように解釈するか。「反射する光」、「モノにできる影」だけでなく、「希望の光」「影のある人」というように様々な「光」「影」をどのように捉え、発展させ、表現するか。アイデアスケッチによる検討、展開。 c 油彩の特性を活かし、多様な技法を用い表現する。 d 課題をどの様に理解したか。制作過程での技法の把握。学生間の作品への興味関心、意見交換の様子など。	:課題作品を制作する意欲、姿勢 :アイデアスケッチ :制作途中の作品 :学生間での作品への意見交換 :完成作品 :準備や片付け、整理整頓の状況

後期	明暗・反転	-スクラッチボード- ・黒いインクが塗られたアクリルボードへニードルを用い描写する。 ・ニードルで描く事でインクが剥がれ、筆跡が白くなる。削りとる表現。 ・普段の白い紙に黒いペンなどで書いている行為を反転させる課題。 ・上記の特徴を用いて、「人物」をテーマに表現する。	○	○	○	○	a 参考資料の収集。 素材の特性、素材に適した技法のネット検索、収集。 b 描写した部分が白くなる、明るくなるということをふまえて発想からの検討、展開。 c ニードルによる線表現の工夫。 モチーフをどのように描写するか。 d テーマをどの様に理解したか。制作過程での技法の把握。学生間の作品への興味関心、意見交換の様子など。	:課題作品を制作する意欲、姿勢 :アイデアスケッチ :制作途中の作品 :学生間での作品への意見交換 :完成作品 :準備や片付け、整理整頓の状況
後期	塑像	-樹脂粘土- 「肉形石と○○○」 ・「肉形石」と各自が決めたモチーフ「○○○」の関係性を検討し、制作する。 ・故宮博物館所蔵の「肉形石」をモチーフとして、粘土を使用し表現する。 ・各自が任意で決めたモチーフを同様に表現する。 ・細部への視線、観察。 ・二点の関係性。 ・粘土による具現化。	○	○	○	○	a 参考資料の収集。 粘土の特性、粘土による表現のネット検索、収集。 b 粘土で表現するにあたって、「肉形石」をどのように表現するか。「肉形石」の対となるモチーフ「○○○」の決定、関係性の検討、どのように表現するか。 c 粘土の特徴を活かして、素材感、質感をどの様に表現するかを模索。 d 課題をどの様に理解したか。制作過程での技法の把握。学生間の作品への興味関心、意見交換の様子など。	:課題作品を制作する意欲、姿勢 :アイデアスケッチ :制作途中の作品 :学生間での作品への意見交換 :完成作品 :準備や片付け、整理整頓の状況

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力

c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。